

瀋陽駐在員事務所

【居民身分証】

日本で「マイナンバー」が導入されましたが、中国ではすでに 1996 年から各個人に固有の番号が割り振りされ、様々な場面で使用されております。現在は IC チップを内蔵したプラスチック型のカードであり、「身分証」は 16 歳以上の個人には全て発行され、氏名、戸籍、民族、固有番号、住所、生年月日等が番号化され、表示されています。

主な用途は、銀行口座開設やモバイルバンキングでの取引の ID、鉄道乗車券・国内線飛行機チケットの購入時および飛行機の搭乗・乗車手続・保安検査時に提示（必須）、ホテルのチェックイン時に提示（必須）などです。この他にも用途は広いため、悪用されるケースも後を絶たしません。また、使用する側にも日本ほど厳密な保管・管理は要求されておらず、情報流失が起きていることは想像に難くありません。さらに、お国柄、「偽物」が広く流通しており、公安当局も頭を悩ませています。

また、カード下部の番号はプライバシーの重要な部分ですが、自分の身分証写真をソーシャルメディアに発信して手痛い代償を払う若者も多いと聞きます。ただ、こちらでは「悪用されるのはきちんと管理・使用しない自分が悪い」との感覚が一般的で、性悪説が一般的な中国での状況を見ると日本でのマイナンバー導入に関係者が神経を尖らせるのも頷けるような気がします。



南 敏律

ユジノサハリンスク駐在員事務所

【年金問題は世界共通？】

国によって年金制度は違います。ロシアでは、男性は 60 歳、女性は 55 歳から年金が支給されます。年金保険料は、月給の 22% 相当(うち保険分 16%、積立分 6%)です。保険分は、実際に積み立てられるわけではなく将来に受け取る年金を算定するためのもので、「計算上の年金資産」と呼ばれます。積立分は、実際に特別個人勘定に積み立てられています。

最近の制度変更により、国の年金基金が 6% の積立分を取り扱わないことになりました。「国の基金(ただし全て保険分になる)」か「民間基金」の 2 つの選択肢があり、今まで積み立ててきた分も含めて決めなくてはなりません。国の保険分は積立分がなく将来の年金が低くなるようです。民間は利息等の運用益は期待できますが、潰れてしまったら国はどこまで援助するのか、と悩んでいるロシア人も少なくありません。

楽天家は「改革のおかげで年金制度の知識レベルが上がった」と冗談を言います。確かに、意味の分からないことは必ず悪いというわけではないでしょう。私もこの機会に色々学びました。年金制度は各国それぞれでしょうが、人口減少、少子高齢化、運用環境等、抱える問題は共通のものもあるのでは？ 皆さん、将来の備えはいかがですか？



マリア・ヤロヴェンコ

ウラジオストク駐在員事務所

ロシアの新年休暇について

日本ではあまり知られていませんが、ロシアでは 10 日間前後に及ぶ新年休暇があります。新年休暇の長さは暦により多少変わりますが、今年は 1 月 1 日から 10 日までの 10 連休でした。

新年休暇は 1 月 1 日、2 日のみと他の国とあまり異なっていなかったのですが、ロシアにおける宗教上の主要祭日の 1 つである 1 月 7 日のロシア正教クリスマスがあることや 2000 年以降には年始にタイやトルコ、エジプト等のビーチリゾートに行くロシア人観光客が急増したことから、2005 年より今の形の新年休暇が導入されました。

ただ最近では、この休暇は長すぎて、メリットよりもデメリットの方が大きいとの声が上がっています。休暇中は行政機関、銀行、会社等が基本的に休業しているので、日常生活のみならず、業務や事業にも支障が出る可能性があります。また、長期で業務から離れると、生産性や仕事の効率性も低下しかねません。

いずれにしても、新年休暇はプラス面があれば、マイナス面もありますので、いかに前者を最大限に活用しながら後者を最小限に抑えれば良いかについては会社等の経営陣の能力が問われています。



イワン・モズゴヴォイ

カシコン銀行

「Happy New Year!!」

タイにおける新年イベントは全部で 3 つあります。1 つは太陽暦の新年である 1 月 1 日を祝うもの、2 つ目は中国の春節と同じような時期である旧正月を祝うもの、3 つ目は 4 月にタイの旧正月（ソクラーン：水かけ祭り）を祝うものです。世界でも名の知れるソクラーンが最も盛大なイベントですが、年間約 3,000 万人の外国人観光客を受け入れるタイでは太陽暦の新年もタイ各地でイベントが催されます。

今回、2 回目となる新年をタイで迎えました。1 年の中では最も涼しい時期で、平均気温 25 度～30 度程度の中、新年のカウントダウンを行うのにも様々な思いが交錯しますが、そんな神妙な感情を吹き飛ばすほどのイベントの勢い。最もメジャーな会場であるセントラルワールド前ではムエタイの試合から、ライブ開催、終始流れるクラブミュージック、バンコクの中心地からあがる新年を迎える瞬間の花火と、凄まじい熱気でイベントを全力で楽しめます。

同じく観光客の多い北海道、札幌の大通りでこのようなイベントがあったら面白いのになと思いつつ、そもそも雪が降っている事を忘れていました。



新年を祝うエラワン



セントラルワールド前特設リング

伊藤 彰浩

日中経済協会 北京事務所 札幌経済交流室

資本主義的タクシーの乗り方

中国では雨の日など天候が優れない日は、中々タクシーに乗ることができません。そんなとき活躍するのが、「滴滴出行」というアプリです。

自分の行きたい場所（住所）を入力すると、その情報が周辺の運転手に伝わります。運転手は自分とお客さんの現在地、目的地までの距離などを総合的に判断し、応諾の可否を判断します。運転手へはアプリ会社から一定の奨励金も支払われるため、北京ではほぼ全ての運転手がこのアプリを使用しています。ここで面白いのは、運転手にチップを渡すことができる点です。分かりやすく言えば、「あなたに別途お金を支払うから、私を優先的に迎えに来て！」というものです。

とある早朝の雪が降る日、北京でこのアプリを使用してみました。出通勤の時間帯かつ天候が悪いという悪条件が重なり、チップなしで応諾してくれる運転手は現れません。完全に運転手側に有利な状況です。そこで、チップの金額を5元、6元、7元・・・と吊り上げていくことに。最終的には、20元（360円）でようやくタクシーに乗ることができました。タクシーの初乗り料金は13元（240円）のため、その高額さが想像できるかと思えます。

このアプリ、確かに便利ではありますが、「高齢者やスマートフォンを持っていない人を置き去りにしている」などの問題点も指摘されています。サービスが便利になる反面、それについていけず取り残される人がいるこの現状。皆様はどう思われますか？



アプリ「滴滴出行」の画面

小笠原 宅麻